

第2回 白馬村計画審議会 会議録

召集年月日	令和2年8月24日(月)			
召集の場所	白馬村役場2階 201・202会議室			
開閉会の日時	開会	午前10時00分		
	閉会	午前11時40分		
出席者数	21名出席			
出席者	区分	役職名	氏名	出席
	教育委員	白馬村教育委員会委員(会長)	幅下 守	○
	公共的団体の役職員	白馬村民生児童委員(会長代理)	横川 定男	○
	議会議員	白馬村議会議員	北澤 禎二郎	○
	議会議員	白馬村議会議員	太田 伸子	○
	公共的団体の役職員	白馬商工副会長	松本 平司	○
	公共的団体の役職員	白馬村体育協会会長	山岸 忠	○
	公共的団体の役職員	区長会副会長	松田 浩貴	○
	公共的団体の役職員	白馬村消防団団長	吉川 玲	
	学識経験者	白馬EVクラブ	渡辺 俊介	○
	学識経験者	白馬村スキークラブ会長	中村 光志	○
	学識経験者	白馬村シニアクラブ会長	丸山 高	○
	学識経験者	白馬村農業委員会会長	松沢 正猛	○
	学識経験者	大北農協白馬支所長	竹田 俊幸	○
	学識経験者	白馬村索道協議会長	倉田 保緒	○
	学識経験者	白馬村観光局事務局長	福島 洋次郎	○
	学識経験者	白馬村ボランティア連絡協議会会長	秋山 香理	
	学識経験者	特別養護老人ホーム白嶺所長	岡田 記子	○
	学識経験者	白馬村金融団幹事長野銀行白馬支店長	松島 亮	○
	学識経験者	白馬建設業組合長	太田 具英	○
学識経験者	Hakuba International Business Association	ミラー ジェーム スイアン マック グレーガー		
一般公募	公募委員	宗川 尚美	○	

	一般公募	公募委員	切久保 達也	
	事務局	白馬村役場総務課 参事兼課長	吉田 久夫	○
	事務局	白馬村役場総務課 企画調査係 長	矢口 浩樹	○
	事務局	白馬村役場総務課 企画調査係	田中 元気	○

1. 開 会

【事務局 吉田総務課長】

開会を宣言した。(進行は事務局 吉田総務課長)

白馬村スキークラブ役員改選により、今回の会議から太谷陽一委員から、中村光志委員に変更となっている。

2. あいさつ

【幅下会長】

お忙しいところお集まりいただきありがとうございます。第2回の審議会となりますが、今回の会議では事務局より提出された後期計画素案について審議いただくこととなります。策定のスケジュールを見ると今回の審議を経て最終案の策定を進めていくこととなるので、今日委員の皆様からたくさんの意見をいただくことがより良い総合計画につながることとなるので、忌憚のない意見をいただけるようお願いします。

3. 報告事項 (幅下会長が進行を務める)

(1) 第5次総合計画前期計画の外部評価結果について

【幅下会長】

第5次総合計画前期計画外部評価について事務局に説明を求めた。

【事務局 企画調査係 田中】

事務局より、資料1・2・3をもって説明した。

【宗川委員】

資料3、クリーンエネルギー自然エネルギーの利活用について、ペレットストーブや小水力について外部評価委員よりコメントがされているが、それ以外に、自然電力を使った電力会社に変えていくことを推奨するなど、新しいことに対して評価委員からコメントは出していないのか。気候変動の宣言をした割に、ずっと前からあるペレットストーブなどに対して評価をしても意味がないのではないのか。新しいことに対してコメントが必要なのではないのか。

【事務局 吉田総務課長】

この評価シートは、前期計画に設定された目標に対してどのように達成されたのかを評価していただ

いている。ただいまの意見については、まさしくこれから協議していただく後期計画の素案の中で、新たにそういったことに対して、村としてこういった指標を掲げていきたいと考えている内容を説明させていただく。前期計画の中では、そういった内容が記載されていなかったということでご理解いただきたい。

3. 協議事項

(1) 第5次総合計画後期計画の素案について

【幅下会長】

第5次総合計画後期計画素案について事務局に説明を求めた。

【事務局 企画調査係 田中】

事務局より、後期基本計画素案・事前確認資料をもって説明した。

【幅下会長】

素案すべての内容について意見を出すには、内容が膨大となるため、4つの基本目標ごとに意見をいただきたい。まず初めに「暮らし」について意見をいただきたい。

【宗川委員】

5年間を検証して、継続したもの、見直したのそれぞれあると思う。どういったところを変更したかなどを教えていただけないと意見しづらい。

【事務局 企画調査係 田中】

まず、今回の後期計画の策定の中で、文書の内容については現状に合っているかなどすべて見直しを行っているため、細かな変更点までは説明することができない。新たに指標が設定された箇所、指標を廃止した箇所、指標の内容を変更した箇所等、大きく変更があった個所について説明をする。

「暮らし」の変更箇所について説明

【太田伸子委員】

4頁、地域おこし協力隊員数について、前期では10人の目標だったのが、実績8人、後期でまた10人と目標が設定されている。地域おこし協力隊については、数だけでなく、3年間の任期後にどれだけ定着をしてもらえるかが重要ではないかと考える。協力隊員の定住率などの現状について教えてもらいたい。また、そういったことを目標に掲げるなど検討してほしい。

前期の外部評価の点数がほとんど3点台で平均点以上となっている。すべていい点数となっていることに疑問を感じる。

【事務局 矢口企画調査係長】

地域おこし協力隊の定住率について、現状の数値は把握していないが、あまり高くないかもしれな

い。地域おこし協力隊の採用の条件の中では定住していただくことを条件としているが、うまく地域とマッチングできなかつたりしている可能性もある。後期計画を策定する中でそういった視点で指標の設定をすべきか参考にさせていただき、検討していきたい。

【事務局 吉田総務課長】

評価の指数について、これはあくまで外部評価委員に点数をつけていただいているものそのまま、事務局で調整などしていないので、あくまで外部評価委員の考えということになる。過去には低い事業もあり、低い理由を説明してほしいと検証委員から意見があった。例えば指数に達していない事業に関しても、取り組んでいる事業の内容を書いてほしいと意見があった。そういったものを見ながら指標を設定するようにしている。今年については高い評価が多いと思う。

【太田伸子委員】

集落支援員の目標数が5人となっている。集落支援員は、人口が減っている中で集落にとって非常に助かっていると聞いている。ただ、30地区ある中で5人という数字が妥当なのか。活用できている地区もあるが、制度を知らない地区や、うまく使えていない地区もある。もう少し人数を増やすや、周知させることについて考えていただきたい。

【事務局 矢口企画調査係長】

集落にとって役に立っているという意見も多くいただいている。増やしたくてもなかなか事務に長けている人を見つけることも難しい現状もある。ただ、今後目標人数を多くして増員していくことも意見を参考に検討していきたい。また、周知についても積極的に行えるようにしていきたい。

【北澤委員】

13 頁、子育てに関する交流や相談の場づくりと適切な情報発信の中で、3 行目以降「建築から 40 年以上経過し老朽化が進んでいることから、現在計画している白馬村図書館等複合施設基本計画に沿って事業を進める」とあるが、これは複合施設に関して子育てとして話が進んでいないと思っているが、役場としては駅に建設をすると進めていながら、子育てと複合化という事では矛盾している。このままでよいと考えるのか。

【事務局 吉田総務課長】

表記の方法について担当課に内容を確認する。

【幅下会長】

図書館の複合施設に子育て支援の施設は含まれないととらえたが、子育て支援の施設はぜひ作っていただきたいとお願いしたい。

【宗川委員】

子育て支援ルームも合わせたものを計画していたのが、場所を選定するのに観光や経済的なことを入

れるのはおかしいのではないか。住民のためのものをつくってほしいとのことであったのに、場所自体がおかしなところになってしまっている。住民の意見として届けたい。

【事務局 吉田総務課長】

複合施設の関係は観光面と住民目線と二つの視点が出ていたが、総合計画の後期計画の載せ方として、複合施設として基本計画までできているので、この先をどう進めるかという部分で、どういった表現にするかということは、持ち帰って検討させていただきたい。

【北澤委員】

13 頁の一番上、平日夜間救急医療事業の目標が維持となっているが、現在休止になっていたかと思う。広域としてどのようにするか考え方は提示されていたか。

【事務局 吉田総務課長】

広域としては継続していきたいと、担当課経由で聞いている。その為維持としていると理解している。

【幅下会長】

他に意見を求めたが、特に発言はなかったので、「暮らし」については終了とし、「産業」について意見を求めた。

【事務局 企画調査係 田中】

「産業」の変更点について説明

【松本委員】

全般を通してとなるが、現状のコロナ禍について、それに対する対策などの内容は記載されていない。観光業に携わるものとして、非常に危機的状況となっている。7～9月は学生の体育・文化系の合宿を主として営業していたが、今年は全く皆無となり、この冬に関してもどうなるかわからない状況であるため、展望が見出せない。このような状況に対してどうあるべきかという事や、救済措置について盛り込んでおくべきではないかと思う。私は五竜にいるが、飯田飯森地区で最盛期から 100 件近く宿泊施設が減っている。この危機的状況も踏まえて検討していただければと思う。

【事務局 吉田総務課長】

コロナ禍の現状で総合計画を策定するにあたり、まず基本理念をどうするのかということは庁内で話し合い、村の 10 年間の基本理念はそのまま問題ないのではないかと結論が出ている。具体的なそれぞれの施策については、一般的に後期計画の内容で読み取ることができる取り組むべき内容を、具体的に実施する政策はどうかということは、実際にはこの計画の下にいくつもの事業がぶら下がっているのでその中で実施していきたい。状況としてこの内容は直さなければいけないという事があれば検討させていただく。KPI の数値がどうか、KPI がこの状況でたてられるのかという事もあるかと思うが、後期の頭の KPI は立てさせていただき、今後の評価などの作業の中で見直しを行っていくこともし

ていきたい。

具体的に救済など事業を行っていくにあたっては、この計画の下にそれぞれの事業がついているという事を理解いただきたい。

【松沢委員】

農業者の代表として意見させていただきたい。27 頁の耕作放棄地の指標について、現状白馬の場合、神城地区はほとんど圃場整備が済んでいて荒れた農地は少ないが、北城地区については荒れた農地が多く課題になっている。目標値が農振農用地の再検討となっているが、これは目標として当てはまらないのではないか。現状の 9.2ha を減らしていくような数値にしていかなければおかしいのではないかと。

また、ほ場整備の推進について、北城南部地区や新田地区は始まっているが、八方口から八方にかけてのいわゆる北城西部地区について、話し合いを始めていかないと、荒れ始めている。何かしらの形で、北城西部地区の話し合いを始めるなど文言を記載する必要があると考える。

28 頁の認定農業者の支援について、神城地区はそこそこの規模の農家がそろっているが、北城地区は農業法人 1 社で相当数を受けていて、距離的にも厳しい。課題として、北城地区の認定農業者の増加について加えていただきたい。

【事務局 企画調査係 田中】

担当課にいただいた意見を伝え、改めて指標の見直しを検討するよう指示をする。

【幅下会長】

他に意見を求めたが、特に発言はなかったので、「産業」については終了とし、「ひと」について意見を求めた。

【事務局 企画調査係 田中】

「ひと」の変更点について説明。

【太田伸子委員】

スクールバスの内容、南北小学校の統合についての検討が始まるなどと話を聞いているが、そういったことに関する内容が記載されていないが、そういったことは触れないままでよいのか。

また、白馬高校の他県からの入学者数の目標が 20 名となっており、しろま学舎の目標数が 60 名となっているが、全国募集は 40 名で行っているのにかかわらず目標値が 20 名というのは、白馬高校生を増やす意欲がないようにとらえられるが。

【事務局 矢口企画調査係長】

スクールバスについては、10 頁の村内の移手段の確保の中で、平成 30 年度に策定された白馬村公共交通網形成計画の中で、村民の足、子供たちの足、観光客の足というところに課題があるという事で、こういった事業に取り組んでいくという事が謳いこんである。一部は指標として記載されているが、そ

れ以外の部分もその計画に記載されているので、総合計画には出てこないが、下の計画でしっかり検討していきたい。

【事務局 吉田総務課長】

白馬高校の関係については、実際に事業を行っているのは白馬山麓事務組合となるが、当初から紆余曲折し、他県からの入学者が多くなった時期もあるが、その分課題も多く見えてきた部分がある。白馬高校の生徒を減らすというよりも、他県は他県、地元からも地元の高校にという事を視野に入れて目標設定をしたと理解している。もう一つうまく絡められればという事で、地域に戻ってきて観光業について、いただいた人に奨学金の補助を行うという事業があるという事で、地域の子供たちが通っていただけるようにしたいという事で、このような形で設定したと理解している。ただ、意見として出ていることは担当課につないで検討するようにする。

義務教育の在り方については、非常にデリケートな問題だと理解している。担当課としてはこの中に掲載しないことと判断しているかと思うが、意見があったことは伝え、検討するように伝える。

【幅下会長】

他に意見を求めたが、特に発言はなかったので、「ひと」については終了とし、「自然」について意見を求めた。

【事務局 企画調査係 田中】

「自然」の変更点について説明。

【宗川委員】

気候非常事態宣言、ゼロカーボンシティ宣言に対する行動計画の策定はいつどこで行うのか。

【事務局 矢口企画調査係長】

具体的にどのような動きをするかという事で、現在これに対して再生可能エネルギーに関する基本方針等連絡協議会設立準備会を関係する団体に入っただけで開催している。

準備会では、まず白馬ではどういった事が問題で、どういったことを進めるべきなのかという議論をしていただいている。課題が整理されたところで協議会を立ち上げ、実際にどんな行動を行っていくのか行動方針の策定を行う予定である。いつ頃にできるかという事は具体的に言えないが、令和7年より早くにできる予定。

【宗川委員】

クリーンエネルギーとも関連するが、太陽光については前村長のときからいろいろと調査をしていたと思うし、小水力発電、木質バイオマスについても過去調査検討をしているはず。そういった事はしっかりと理解したうえで行動計画の策定を進めているのか。前副村長がいた際に行った小水力発電の調査では、小水力発電については農業用水でしかできないのではという事になっており、私も小水力発電を行おうと農政課に相談したが、個人的な小水力発電のバックアップするのではなく、個人だけでやると

周りによくないのではないかという感じだった。それを促進するのが村の仕事ではないかと思っている。専門家を集めて行動計画を策定するのもよいが、過去に検討したこともあるので、それを基にもっと早く進めてほしい。気候変動に対することは世界的に見ても遅れているし、宣言をしたのだからスピード感をもって進めてほしい。過去のそれぞれの検討結果はしっかり把握してほしい。

【松沢委員】

太陽光発電の話があったが、農業委員会に太陽光発電導入に関する話があった。事業者としては、村がこういった宣言をしているので反対はしないだろうという感覚だったと聞いている。白馬の自然景観を活かした村づくりの推進の中で、そういった施設をどこでも導入させて良いのか。特に農地はまとまった土地を手に入れるに都合がいいので、心配している。景観に配慮したなど、規制的なものをうたっておかないといけないと思う。自然エネルギーも大事だが、導入にあたってはある程度規制を設けながら慎重に進めていただきたい。

【宗川委員】

農地の上につくるよう太陽光は反対で、トップダウンで規制してもらいたい。太陽光をやるのであれば屋根の上だけなど規制してほしい。日本人は規制をすれば守る風潮なので、トップダウンで規制をして進めてほしい。

【事務局 吉田総務課長】

再生可能エネルギーの状況については、数値としては大学やNPOが出した数値を使わせていただいている。準備会は専門家ではなく、それぞれの事業を行っている各団体が、ほかの団体が行っていることがわからないので、横の連携をとれるように行っている。また、太陽光や小水力など計算式や電力会社からもらった数字を基に、算出した基準となる数値を委員に示している。

太陽光については、住民からも意見がある通り、ある程度一定規模のものについては規制をかけるような作業は進めている。今回の意見についても担当課に伝える。

これからどのように進めていくのかというのが、行動計画の策定になってくる。小水力発電については川を使うので水利権が発生してくる。小水力発電を始めたいと考える事業者も、水利権のところで難しいと判断する実態がある。そういった事を再生可能エネルギー推進に向けた村の役割として担っていただけないかという意見が会議の中で出ている。木質バイオマスについても公共施設では導入するが、本来であれば切り捨て干ばつをどのように薪にしていくのかという課題もある。それぞれが持っている課題をだれがやっていくのかという事を行動計画で示していきたいと考えている。

【宗川委員】

自分で作ることに关しては良いが、村として自然電力などを使った電力会社を促進するような取り組みは進めていく考えはあるか。

【事務局 吉田総務課長】

そのあたりも普及啓蒙は中に入れていくが、具体的にどの会社という事は出来ないが、いろんな選択

肢があることが知られていないこともあるので、そういった事を周知していきたい。

【渡辺委員】

クリーンエネルギーについて、EV 助成件数が加えられたのは非常に良い。文中で、低公害公用車を導入・更新しますとなっているが、低公害公用車両数の指標について6台から6台の維持となっているのは消極的にだと思う。また、全公用車数の割合なども出してもらえるとありがたい。

【事務局 矢口企画調査係長】

おそらく公用車については車両の更新計画と照らしながら進めていると思われるが、そういった意見があったことは担当者に伝える。

【太田伸子委員】

松本委員からも話があったが、今後5年間の基本計画の中で、コロナ禍のことについて先行きが見えない中で数値に表すのは難しいが、前期策定のころのインバウンドの積極的受け入れを考える時期とは違い、国内のこともしっかりと考えないといけない。

全文などのところでコロナのことも入れていくべきではないかと考える。検討してもらいたい。

【事務局 吉田総務課長】

そのようにさせていただく。理念は変更しないが、現状と課題についてはコロナ禍について加えていきたい。

4. その他

【事務局 吉田総務課長】

特になし

5. 閉会

【事務局 吉田総務課長】

閉会を宣言した。